

セブンスデー・アドベンチスト教団



アドベンチスト

はらしゆく

October



「なぜ、そんなに怖^{こわ}がるのか」

東京中央教会副牧師 武井 今日子

「テロリズムとは何か？ テロリストが狙っているのはあなたの心です。」と、新聞に書かれていました。人々の心を神から引き離し、恐怖と不安、憎しみと悲しみで戦場化させることがサタンの狙いです。「地上では海がどよめき荒れ狂うので、諸国の民は、なすすべを知らず、不安に陥る。人々は、この世界に何が起こるのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。（ルカ 21:25～26）」と、聖書は終末の徴を預言しています。毎日の報道を聞くたびに、私たちの心も浮き足立ってしまいます。今、私たちの心の防壁となるものはただ一つ、聖書です。

2000年前、イエス様は「向こう岸へ行こう」と、弟子達に船をこぎ出させました。するとどうでしょう。予期しなかった事態がやってきました。突然、突風が吹いてきたのです。あらゆる海を経験していた弟子達。しかし、彼らの腕も力も今回は、役に立ちませんでした。それぞれ自分の命の危険を感じとりました。船は大きく揺れ、波が押し寄せてきます。なすすべはありません。その時やっと彼らはイエス様が船の中にいることを思い出したのです。今にも沈むかもしれない船の中で、弟子達の叫び声と荒れ狂う疾風の中、イエス様は眠っておられました。弟子達は自分達が無視されていると思ったのでしょうか？ 何もしてくれないイエス様に対して「先生、私たちが溺れてもかまわないのですか？」と非難します。この突風は弟子達の生死に関わる問題です。しかし、イエス様はそれを問題とせず悠然としておられるのです。「イエスは起きあがって風を叱り、海に向かって「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになりました。イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなに怖^{こわ}がるのか。まだ信じないのか。（マルコ4:39～40）」その時、本当の畏れと驚きが弟子達を支配し始めました。弟子達はそこに立っておられる方が一体誰であるか分かったのです。

私たちの生活の中でも同じ事が起こります。私たちの人生の航路に恐るべき突風が吹きすさぶ時があります。今、世界中の人々の船が、心が、大きく揺れ動いています。しかし、恐れることはないのです。今こそ、私たちが仰ぐべき方を仰ぎ、本当に畏れるべき方を畏れなくてはならない時なのです。今こそ人知を遙かに超えた主の偉大な御業が世界に明らかになる時なのです。

教会の地下から1階へ上がる階段の壁に一枚の絵が飾られています。イエス様が嵐の中、船の舵を取って下さっている絵です。私たちの周りでどんなに恐ろしい突風が吹き荒れてもイエス様は舵をしっかりと握って下さっているのです。必ず向こう岸まで私たちを導いて下さるのです。「陸の上でも、海の上でも、心のうちに救い主を持っているなら、恐れる必要はない。救い主に対する生きた信仰によって、人生の海はおだやかになり、主が最善とごらんになる方法で、われわれは危険から救われるのである。」（『各時代の希望』中巻P60）

伝道集
第弾

皆の「秋の講演会」

東京中央教会長老 柳沼 時影

週間たつのが早いと思っているうちに、講演会の季節です。讃美歌に“歳月の流れ早く、旅人たる我は...”と、信仰人としてやること多いのに時間ばかり早く流れるのを嘆いている一節があります。信仰のパターンが日に日に単調になり、なにか靈的に喝いていくような気がするなかで、講演会は特別な意味があります。いや、そうでなければならぬと思います。

講 演会は伝道会の後身です。以前は、何週間もつづけて開かれていたと聞きますが、心に留めた人たちを講演会に招き、教会はそれにそなえたのです。イエス様は、シカルの井戸のそばで、社会的に優待されない一人の女の人に伝道をなさりながら、弟子たちには理解できない食べ物があると語られました。伝道は靈的食べ物です。信仰は伝道を真剣に考えるとき燃え、前進することができるのです。

講 演会はリバイバル聖会でもあります。しておれて行く霊の息を取り戻し、聖霊に満たされ、教会の隠れ存在している血と肉のことを取り除き、教会が浄化され神の宮である我々自らを再認識する時です。イエス様が義憤をもって父の宮を潔めておられる姿を想像してみてください。今がその時です。我々の教会に前に進めない要素があるならしたら、それは聖霊が我々に語っておられる御声に耳を塞いでいるせいかも知れません。

講 演会は「一つになる機会」です。教会の一部署が起案してそれをなんとか成功させようと、せっせと奔走するものではなく、むしろその逆ではないでしょうか。「私たちが助けてやるから、『信伝さん、頑張れよ』となったら、いかにほほえましいことでしょうか。そのような宴の場には客も多いはずですが、一つになることにはもっと大切な意味があります。講演会の全過程を通して、兄弟姉妹が一つ心で祈り備え、新しい信者から年輪ある指導者に至るまで心が砕かれ、全信徒のわだかまりが消え、まるで新しい酒に酔うようになることです(使徒2:13) この姿を原宿の町が見えるようになることです。

今 年の講演会の計画を始める頃、その効果について色々異論があったことを感謝します。すべてを合わせて益になさる神は、準備過程を通して、「信伝」会員ひとりびとりのタラントを引き起こされ、また協調と理解の精神を養って下さったばかりでなく、来年に継ぐビジョンも与えて下さいました。そして、なによりも感謝するのは皆様の協力です。
こ こで一つお願いがあります。祈りで支えて下さい。講師である板東牧師のため、奉仕者たちのため、皆様が心に留めた方々のため、天候のため、天国の雰囲気の宴になれますように。ハレルヤ。



「テロの日、ニューヨークにいて」 金子 盾三

2001年9月11日、アメリカで起こった同時多発テロ事件は衝撃的な映像とともに、人々の心を恐怖と悲しみで満たした。

その日、私は偶然にもニューヨーク州マンハッタンにいた。「デーケン先生と行くアメリカ東海岸ホスピス視察研修」の一行に加わっていたためである。当日の朝9時前にホテルを出て、バスで、ある研修病院に向かっていた。その途中、高いビルから煙が立ち上っているのが見えた。それがテロの標的となった世界貿易センタービルであった。ビルはまたたく間に崩壊して、6千人以上の尊い命が失われた。(〆)

(ㇿ) 私が参加していた研修は「東京・生と死を考える会」の企画したもので、私たちには、よりよく生きるため、また平安な死を迎えるために「死への準備教育」が必要である。そして、キリストの再臨に備えて生きることが私たちの使命であることをあらためて思った。

聖句と私

三村 明子

私には、長い間、理解できない聖句がありました。民数記21の9「**モーセは青銅で一つのへびを造り、それをさおの上に掛けて置いた。**」このへびは、キリストを示しているというのです。「キリスト・イコール・へび」の意味が判りませんでした。証しの書を読んでもその意味にはふれていません。へびはサタンのしるしなのにどうして、キリストなのか。そのことが示されるように祈りました。

ある日、歩きながら本を読んでいると、雷に打たれたような衝撃を受けました。そのときはっきりとへびの意味が示されたのです。

悪魔の罪の子である私がへびであり、そのへびである私の身代わりとして、罪のないキリストがへびになられたのでした。私は、キリストの深い愛とへりくだりに心打たれ、涙があふれ出てきました。感動で心がふるえ、神への讚美と感謝で満たされたのでした。

原宿彩彩 (1)

「さあ、わたしたちは主に帰ろう」

— 東京東地区合同礼拝 (9月8日)

JR川口駅隣接という交通至便会場「川口リア」で「リバイバル合同礼拝」がもたれました。この記念すべき会は、牧師をはじめ各教会の代表が昨年6月から、異例なほどの回数を重ねて会合を開き実現したものです。『上からの、いわゆる“トップダウン”式でなく、多様化する教会が“自立型”へと改めて意識改革をし、REVIVALを求めよう、それこそ時にかなうものだ』とのモットーのもとに、準備が進められ(中心になってご奉仕下さった浦和教会・佐久間先生のお話) みごと実を結んだ礼拝でした。通訳の労をとられた横山絢子さん、及川律さん、ありがとう。佐々木誠さんの指揮による合同聖歌隊の讚美も印象的でした。熱のこもった多彩なプログラムを支えられた大勢の方々に、敬意と感謝の念でいっぱいです。

タイムトリップ(?) - 素敵なお歌の敬老会

9月15日の安息日の午後、三育学院の高橋共子先生とピアニストの森恵子さんをお招きして、敬老会が開かれました。満面のほほえ

みでもって披露された美しい童謡と唱歌は、参加者を幼い頃にタイムトリップさせてくれました。森さんの讚美歌ピアノソロも素敵でした。最後に、全員で讚美歌を歌って、敬老会はお開きとなりましたが、参加者皆の心が、美しい歌声とピアノ伴奏になごまされたひとときでした。

毬栗いぐりを一つ見付けし小さき秋 (茂子)

土の上置きたや道の散り紅葉 (〃)

我が夏や小さき句帖に惜しみをり (保)

孫娘はにかみ覚え秋桜 (〃)

虫しぐれ止みしじまの深きかな (〃)

裏方の似合ふ人逝き秋海棠 (武国)

「ただただ懐かしく、嬉しいひととき」

— 楽し 敬老会 ありがとうございます —

長岡 すゞ子

先日の敬老会では、お懐かしい方々と楽しい音楽会、感謝致しております。でも最年長者であられる井上澄様、伊藤冬子様や外の方々にもお会い出来ず淋しく思いました。皆様の御健康をお祈り申し上げます。お懐かしい高橋共子様、森恵子様お招き戴き感謝でございます。私は特に共子様の御家族にお会い出来て感謝でございました。

思へば共子様には、昔私がお母様にお茶お花を教へ頂いており、家にちょいちょいお出で下さり、其の当時小学校二・三年の頃、コロビアの童謡歌手として忙しくておられました。たまたま中央教会創立初代牧師でいらしたエルドリッチ先生が預言の声を担当しておられ、共子様の事をお話し申し上げましたら、早速預言の声の歌手としてずっと放送されていまして。其の当時より中央教会にいらっしゃり、声楽の方に進んで、今日の高橋共子様でいらっしゃいます。久しぶりにお母様にお会い出来、楽しい一日でございました。

又森恵子様は其の当時教会にいらしておりました。色々証の文やら御翻訳なさっていた左近充先生のお嬢様で、お母様に手を引かれて教会にいらした事お懐かしく思い出されました。息子も三育小学校で御一緒でした。

敬老会のため色々準備なさりお手伝い頂きました方々に感謝と共に神様のお慰めがございました様心よりお祈り申し上げます。



エルドリッジ先生とリーサ夫人



『この深き出会いを』 についてのご報告

昨年夏刊行の創立五十周年記念誌『この深き出会いを』の配付・販売実績については、「8月18日現在」の数字を、ロビー掲示板でご報告しましたが、ここに改めて概要を。制作部数1500部、寄贈(配付)数690部、実売678部、在庫132部、総売上額43万3700円です。実売の内訳は、販社ABC扱い分366部、(教会内)委員会受注分312部です。ただし、その後9月初旬に千葉県「銚子聖書研究会」から計10部の購入申込みがありましたので、10月1日現在では実売は688部、売上額44万3700円、在庫122部となります。ご支援に感謝いたします。

(五十周年記念誌出版委員会)



原宿彩彩 (2)

おめでとう
ございます!

9月23日(日) 雲一つない澄み切った高い高い青空のもと、当教会執事久木田明夫さんと聖歌隊メンバー浅野加津子さんの結婚式が板東洋三郎牧師の司式で行われました。とにかく目尻と頬が緩みっぱなしのお二人の笑顔が印象的な式でした。教会の光となるこの笑顔がいつまでも続きますようにお祈りしています。因みに新郎父君の久木田和彦牧師は万感の思いを込めて一言、「待った甲斐がありました!」

「先生、これからですよ。」

これから本番です!」

～ Shaking Tokyo 2001 全日程を終了 ～
Shaking Tokyo 2001が盛況のうちに終了しました。ファイナルイベントには147人が集まり、素晴らしい神様の御業を見せていただきました。

3週にわたる安息日ごとに続けられたアウトリーチ・プログラム(街頭での伝道・奉仕活動)にはのべ100人以上の青年が参加しました。最初はドキドキでしたが、いざ街角に出た彼らは勇敢でした。明るく、生き生きとした表情で、実に堂々と伝道・奉仕の活動を行ったのです。

そしてファイナルイベントの29日。5時からの開会でしたが、何人かの青年は6時過ぎまで、教会前で、そして街頭で、道行く人々に語りかけたのです。その後ろ姿はほんとうに美しく、美しいものでした。その甲斐あって、街頭でチケットを受け取り、初めて教会に足を運んだという青年の姿も見られ、スタッフ一同本当に励まされました。

イベント終了後も自由な交わりの時をもちましたが、1人で寂しそうにしている人がいないように、心を配り、フレンドリーに話し掛ける青年たちの熱意が、とても楽しい交わりのひとときに導きました。教会に初めて来た人の中からも「入りやすい雰囲気だった」「楽しかった」「罪がわかった」「また来たい」という



声が聞かれました。

今回励まされたことは、祈りによる支援でした。62枚もの「祈りのカード」が送られてきました。この紙面を借りて心からお礼申し上げます。

ファイナルイベントは終わりましたが、10月から毎週土曜日の夕方に、求道者向けの礼拝“beehive LIVE”が始まります。集会後、青年たちに「お疲れさま。よかったね」と声をかけると、こんな言葉が返ってきました。「先生、これからですよ。これからが本番です!」

神様がこれからさらにどのように働いてくださるのか、本当に楽しみです。(花田憲彦)

車椅子のご提供を

「バリアフリー計画」は、台風の続発で遅れていましたが、いよいよ完成に近づいています。皆様のお祈りとお支えに感謝します。入口のスロープ通路は、9月29日安息日から利用していただけるようになりました。については、車椅子が必要です。ご提供くださる方、おられましたら、どうぞよろしく願いいたします。(板東洋三郎)

牧師によるバイブル豆事典

「戦争」

人間ほど互いに争い戦って、同種の仲間を大量に殺戮する動物は他にありません。その原因について聖書は、人間の心の内に潜む自分のことしか考えない欲望にあると指摘しています(ヤコブ 4:1,2)。自分の立場だけが唯一、絶対正当なものだと主張し、相手の立場に立つてものを考えることができない、考えようとしない人間の自己中心性の罪がその根底にあるのです。

宗教が絡む戦争は常に「聖戦」でした。日本の知識人の中には、特に唯一絶対の神を信じるイスラム教、ユダヤ教、キリスト教が問題だという人があります。確かに一神教を信じるものにとっては他の神は神でないのです。しかし、神は絶対であっても、その神を信ずる人間、またその人の神理解、信念は相対的なものにすぎません。そして他の人も、自分が信じる神とは違った神を信じ、違った信仰を持つ自由と権利を有しています。それが「信教の自由」ということです。人類は宗教の名において多くの血を流してきました。キリストは「剣を取るものは皆、剣で滅びる」と言われましたが、一般市民を巻き込む「正義」の戦いは、憎しみを増幅し、新たな「正義」の報復攻撃を生む結果をもたらすでしょう。

第三千年紀を迎え、人類はそろそろこの信教の自由の大原則を学ばなければなりません。そうでなければ、宗教は平和をつくり出す力となることはできず、これからも「聖戦」が繰り返されることになるでしょう。(神国日本においては、多神教の神道や、仏教を信じる人々が、聖戦と呼ばれたこの前の戦争にいたるまで、常にキリスト教徒を迫害し、殉教者をつくってきた事実を忘れてはなりません。)

(パブリック・エバンジェリスト 白石 尚)

10月のスケジュール

- 10 / 5(金)~7(日) 英語学校バイブルキャンプ
 / 6(土) [説]板東洋三郎牧師
 各部役員会
 長老会 15:00~
 /13(土) [説]武井今日子副牧師
 アドベンチストはらじゅく & 週報発送
 /13(土)~14(日) 講演会「十字架は今も」
 板東洋三郎牧師 15:00~16:30
 /14(日) バザー準備 10:00~15:00
 /19(金)~21(日) 青年修養会 天城山荘
 /20(土) [説]板東洋三郎牧師
 理事会 15:00~ 祈りの部屋
 /21(日) バザー準備 10:00~15:00
 /27(土) [説]板東洋三郎牧師 & 子供のお話
 /28(日) 教会バザー 10:00~14:00

教会のホームページを開設しています。
 SDA東京中央教会のアドレス

<http://www.sda.gr.jp>

エデン
ED園だより

9月29日(土)午後おそく、教会内はエネルギーな雰囲気がいっぱいになりました。「SHAKING TOKYO 2001」の最終イベント・講演会の準備に、車のイラスト入り、お揃いのおしゃれなTシャツの若人が大勢キビキビと立ち働く様はまさに壮観。照明やビデオの機械をセットする人、ポスター貼る人、合唱の練習に励む面々、楽器を鳴らす人...。それにしても、今の若人のアイディア豊富なこと!イラストの上手なこと!脱帽です。皆さんの心づよい頑張りに感謝。(YY)

発行：東京中央教会コミュニケーション部

* 発行人：板東洋三郎

[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517

* 編集人：前中靖司

* スタッフ：佐藤敏子・寺内雅子・平山茂子・森武靖子・山口保夫